

公益財団法人日本生態系協会

令和7年度事業報告

令和7年4月1日～令和8年3月31日

1. 自然と共存した美しく持続可能なくにづくり・地域づくりに向けた普及広報、啓発教育事業

自然と共存した美しく持続可能なくにづくり・地域づくりを実現するために必要な考え方、施策、事業等を広く普及し啓発することを目的に、以下の事業を行いました。

(1) 政策提言事業

法令等の制定・改正、各種行政計画の立案や見直しに向けて、次の意見書・要望書を提出しました。また、与野党の国会議員に面会し、持続可能なくにづくり・地域づくりの必要性、とるべき施策について提言しました。

[意見書・要望書の提出]

- ・「土地改良事業設計指針「ほ場整備」制定(案)」に対する意見(12月24日、農林水産省農村振興局整備部設計課に提出)
- ・観光立国推進基本計画(素案)に対する意見(2月27日、観光庁観光戦略課意見募集担当に提出)
- ・「太陽光発電における自然環境配慮の手引き(案)」に対する意見(3月4日、環境省自然環境局自然環境計画課に提出)

[意見発表]

- ・令和8年度予算・税制等に関する要望(11月11日、公明党に提出・ヒアリング、11月12日、自由民主党に提出・ヒアリング)

(2) 国際フォーラム事業

国際フォーラムの次回の開催に向けて、国内外の持続可能なくにづくり・地域づくりに関する情報収集や検討を行いました。

(3) 会報及び書籍の編集・発行事業

会報「エコシステム」を隔月で編集・発行し、持続可能なくにづくり・地域づくりに関する考え方や国内外の事例を紹介しました。会報は、国会議員、地方議会議員、国や地方自治体の職員、報道機関等に対し、無償で配布しました。

11月号(市街地をもっと緑地を)の発行を機会に「会報贈呈キャンペーン」を実施し、当協会の考え方や先進事例の普及を行いました。

(4) 地方自治体への情報提供事業

全国の知事、市区町村長や地方議会議員等を対象に、自然と共存した持続可能なくにづくり・地域づくりに関する情報提供を行いました。

(5) ウェブサイト、各種報道機関等への広報事業

協会が運営するウェブサイトやフェイスブック等のSNSのほか、テレビ・新聞・雑誌等の媒体を通じ、協会の考え方の普及や活動に関する広報を行いました。

当協会の関わる各種の事業が、様々な媒体で取り上げられました。

テレビの番組制作、新聞の取材に対し、協力を行いました。

(6) 写真等の貸出事業

協会所有の写真や図版等の貸出を通じ、協会の考え方の普及や活動に関する広報を行いました。

(7) 人材開発事業

環境に関する正しい知識と技術を持つ人材の育成のため、ビオトープ管理士及びこども環境管理士の資格認証、並びにビオトープ管理士に関するセミナーを、対面式とオンラインで実施しました。

ビオトープ管理士で構成される日本ビオトープ管理士会の運営支援と、こども環境管理士の活動支援を行いました。

7月19日、植草学園大学の協力により、同校「植草共生の森」(千葉県)にて、「こども環境管理士研修会2025・夏」を実施しました。

(8) 学校・園庭ビオトープ普及促進事業

学校ビオトープ・園庭ビオトープの普及と質の向上を目的として、「全国学校・園庭ビオトープコンクール2025」を実施しました。本コンクールの開催に当たっては、広く協賛・寄付を募り、多くの支援を頂きました。2月8日には、東京国立博物館平成館大講堂にて発表大会を行い、秋篠宮皇嗣殿下並びに悠仁親王殿下の御臨席を賜るとともに、開会に当たり、秋篠宮皇嗣殿下から御言葉を賜りました。

コンクール等を通じて蓄積された知見をもとに、学校ビオトープに取り組みたい学校や、園庭ビオトープに取り組みたい幼稚園・保育所・認定こども園等に対し、指導・助言を行いました。

(公財)三菱UFJ環境財団による学校ビオトープづくり支援助成の運営に協力し、学校・園庭ビオトープの取組への指導助言を行いました。

(9) 環境講座事業

10月26日、そごう千葉店におけるそごう創業196周年 サンクスフェスタのイベントにて、TCA東京ECO動物海洋専門学校の協力のもと、一般市民を対象にした環境問題に関する講座と工作のワークショップを実施しました。

(10) 海外の視察ツアー事業

6月1～7日、「子どもの感性・思いやり・自立心を育む 自然ゆたかなドイツの園づくりツアー

2025」を、当協会の視察企画・協力で実施しました。保育者のほか、園庭の施工業者、行政職員等、全国各地から参加があり、ミュンヘンを中心に、保育・幼児教育関係施設のほか、生きものに配慮したクラインガルテン、野の花咲く空港敷地などを巡りました。また、視察概要については、協会ウェブサイトに掲載しました。

(11) 委員・講師派遣事業

以下に挙げた国や地方自治体、団体等による各種委員会、検討会の委員等に、役員や職員が就任しました。

- ・ 自然再生専門家会議委員(環境省、農林水産省、国土交通省)
 - ・ 釧路湿原自然再生協議会委員(釧路湿原自然再生協議会)
 - ・ 関東地方ダム等管理フォローアップ委員会委員(国土交通省)
 - ・ 利根川水系における治水計画検討委員会委員(国土交通省)
 - ・ 利根川水系利根川・江戸川河川整備計画フォローアップ委員会委員(国土交通省)
 - ・ 大分県環境審議会委員(自然環境部会)(大分県)
 - ・ コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム 顧問(コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム)
 - ・ 長沼町タンチョウとの共生検討会議アドバイザー(北海道長沼町)
 - ・ 黒松内生物多様性保全奨励事業運営委員会(北海道黒松内町)
 - ・ 所沢市みどりの審議会委員(埼玉県所沢市)
 - ・ 志木市環境審議会委員(埼玉県志木市)
 - ・ 佐渡市総合戦略アドバイザー(新潟県佐渡市)
 - ・ 出雲市トキ野生復帰アドバイザー(島根県出雲市)
 - ・ 竹富島地域自然資産運営協議会委員(沖縄県竹富町)
 - ・ 暗い自然環境を保護するための照明指針作成に向けた研究調査委員会((一社)照明学会)
- 等

以下に挙げた地方自治体や企業・団体、NGO、学校等からの依頼に応じ、役員や職員を講師として派遣しました。

- ・ 第7回生物の多様性を育む農業国際会議(ICEBA7)分科会③「環境保全に取り組み生産された農産物の生産と消費が広がるためには？」(小松島市生物多様性農業推進協議会)
- ・ 国土交通省国土交通大学校 令和7年度専門課程 河川環境研修
- ・ 千葉県自然環境保育交流会(千葉県健康福祉部子育て支援課)
- ・ 令和7年度生物多様性環境学習事業「平安時代から続く京の鳴く虫文化」(京都府、きょうと生物多様性センター)

- ・ 第63回政令指定都市私立幼稚園団体協議会横浜大会 分科会「幼稚園の強み、再発見」
- ・ 京都府「KYOTO地球環境の殿堂」国際会議・未来会議ワークショップ(「KYOTO地球環境の殿堂」運営協議会、京都環境文化学術フォーラム)
- ・ 環境講座「親子で楽しむ昆虫観察会」(足立区環境情報プラザ)
- ・ 新潟大学大学院自然科学研究科「環境ガバナンス概論/環境ファシリテーター論及び演習」
- ・ 島根大学「島根学」
- ・ 鹿児島大学「自然環境保全と世界遺産」
- ・ 学習院大学文学部教育学科「環境教育論」
- ・ 日本大学 生物資源科学部 森林学科「実践森林学」
- ・ 名勝 渉成園で愉しむ夕暮れの虫の音会(東本願寺)
- ・ おらいのトキを目指す登米市～トキの田んぼ、そしていぐねで子育て～((公財)鳥類保護連盟)
- ・ 自然豊かな園庭づくりシンポジウム((株)スマートエデュケーション)

等

(12) 市民活動支援

当協会と目的を同じくする国内外の個人及び市民団体と情報交換を行うとともに、活動に関する相談を受け、提言及び支援を行いました。

(一社)関東地域づくり協会の助成金を活用し、関東地方における水と緑のネットワーク拠点に係る市民団体や企業等の取組に対する支援を行いました。

多くの団体・企業が参加する30by30アライアンス(事務局 環境省)の、第4回30by30アライアンスコアメンバー会議(1月26日)に参加、発言しました。

令和7年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰において、当協会から推薦した森祐隆氏(常務理事)が表彰されました。

ほか、以下について対応しました。

- ・ 第1回やすぎシグナスフェスティバル(6月1日、やすぎシグナスフェスティバル実行委員会主催)の後援
- ・ 日本ビオトープ管理士会関東支部研修会(6月1日、日本ビオトープ管理士会関東支部主催)の後援
- ・ 自然豊かな園庭づくりシンポジウム(6月28日、くまもと雨庭パートナーシップ、(株)スマートエデュケーション主催)の後援
- ・ 第3回幼児期の環境教育研修会…生きものと育む人の育ち…(8月20日、bioa主催)の後援
- ・ こどもの森づくりフォーラムin奈良(11月16日、こどもの森づくりフォーラム実行委員会主催)

の後援

- ・「第5回ビジネスフォーラム」におけるビジネスマッチング(12月2日、2030生物多様性枠組実現日本会議(J-GBF)・経団連自然保護協議会共催)でのブース出展
- ・第1回やすぎシグネットフェスティバル～音楽を楽しむこどもたちのワンダーランド～(2月7・8日、やすぎシグナスフェスティバル実行委員会主催)の後援
- ・雨庭と自然豊かな園庭づくりシンポジウム@東京(3月27日、(株)スマートエデュケーション)の後援
- ・2026NEW環境展(令和8年5月20～22日、日報ビジネス(株)主催)の協賛
- ・2026地球温暖化防止展(令和8年5月20～22日、日報ビジネス(株)主催)の協賛

(13) 学生研修等受入事業

大正大学社会共生学部公共政策学科からインターンシップを受け入れ、自然の重要性や公益活動の必要性等を指導しました。

創価大学「グローバル・シティズンシップ・プログラム」森林グループから学生を受け入れ、研究のためのインタビューに協力しました。

(学)森村学園中等部から生徒を受け入れ、職業体験に協力しました。

森の墓苑にて、TCA東京ECO動物海洋専門学校、千葉県環境生活部等の研修、(株)加藤建設の研修を受け入れ、自然の重要性や公益活動の必要性、森の墓苑の取組の意義等を指導しました。

(株)加藤建設の環境保全社員研修を受け入れ、主に埼玉県下における自然と共存するまちづくりの事例を視察しました。

台湾から自然保育與環境資訊基金會(TNF/(財)Trust in Nature)の一行を受け入れ、当協会の活動を説明、意見交換を行いました。

(14) その他

公益信託サントリー世界愛鳥基金の助成を受け「ツルが舞う空を見上げようプロジェクト」を立ち上げ、以下を実施しました。

- ・シンポジウム「ツルが空を舞う未来のために～気象と渡り鳥から考える新たな越冬地づくりに向けて～」の開催(2月1日、出水市と共催)
- ・佐賀県佐賀市・鹿児島県出水市の小中学生のオンライン交流(3月8日)
- ・地域の方々との連携による、ツルのねぐら整備及びモニタリングの実施
- ・ツルへの発信機装着及び発信機を付けたツルの移動データの公開、目撃情報の一覧公開

2. 自然と共存した美しく持続可能なくにづくり・地域づくりに向けた調査研究事業

行政や企業からの受託業務や助成金を活用し、国内外の自然生態系の保全・再生・創出に関する各種データの収集、分析を行いました。また、これらの結果は、普及広報、啓発教育事業の基礎資料、具体的事例として活用しました。

なお、次の各国に役員・職員を派遣し、情報を収集しました。

()内は視察テーマ

- ・7月6～13日 ドイツ(有機農業を促進する制度や政府やNGO等の取組について)
- ・8月17～22日 米国(コウモリ保護の取組について)

(1) 国内外の関係法・条例等に関する調査研究事業

自然と共存した美しく持続可能なくにづくり・地域づくりに関する条約、法律、条例、行政計画、具体的な施策について情報を収集・分析し、調査・研究を行いました。

(2) 自然生態系調査研究事業

自然生態系の構成要素である野生生物を中心に、その生態や生物多様性に関する調査・研究を行い保全活動に活かしました。

(3) エコロジカル・ネットワークに関する調査研究事業

コウノトリ、トキ、ツル類等の大型水鳥類を指標とした地域づくりや、全国各地の河川・流域等におけるエコロジカル・ネットワーク形成に必要な情報を収集・分析し、今後の施策等の研究を行いました。

北海道石狩川流域におけるエコロジカル・ネットワーク計画推進のため、長沼町に職員1名の長期派遣を行いました。

(4) ハビタット評価調査研究事業

JHEP認証制度(ハビタット評価認証制度)に基づく認証を、以下のとおり行いました。

- ・佐川東京ロジスティクスセンター(STLC)(5月・更新、(同)おおぞら)
- ・島津製作所 E1号館・島津の森(5月・更新、(株)島津製作所)
- ・(仮称)御成門計画(7月・新規、鹿島建設(株))
- ・BRANCH神戸学園都市(7月・更新、大和リース(株))
- ・ウエリス豊中桃山台こもれびテラス(8月・更新、ウエリス豊中桃山台管理組合)
- ・所沢市第2一般廃棄物最終処分場(やなせみどりの丘)(9月・新規、所沢市)
- ・大山ダムビオトープ(11月・更新、(独)水資源機構、(株)熊谷組)
- ・讃岐緑想(11月・更新、(株)菅組)
- ・富士小山事業所1号館エリア生物多様性プロジェクト[日立ハイテクサイエンスの森](12

月・更新、(株)日立ハイテクアナリシス)

・ロイヤルパークス豊洲 (3月・新規、大和ハウスリート投資法人)

G認証制度(二次的自然環境保全型ハビタット認証制度)について、ゴルフ業界誌『GEW 月刊ゴルフ・エコノミック・ワールド』(刊 ゴルフ用品界社)にて、8号にわたり、連載記事を執筆しました。

(5) 自然再生に関する調査研究事業

国内外の自然再生の方法、評価等に関する調査研究を行いました。

千葉県長南町に所有するトラスト地において、森と草はらを取り戻しエコロジカル・ネットワークに寄与する「森と草はらの再生プロジェクト」の取組を行いました。

(6) 自然災害と地域づくりに関する調査研究事業

全国各地の取材を行い、自然と共存した美しく持続可能なくにづくり・地域づくりに向けた資料を作成しました。

所有者不明土地の現状や、社会情勢の変化を踏まえた新たな土地制度の在り方について、調査研究を行いました。

(7) 環境教育に関する調査研究事業

国土交通省の荒川知水資料館(東京都北区)の運営支援を通じて、流域の学校を始めとした多様な主体に対する情報発信や学習支援等を行いました。

(8) 環境と経済に関する調査研究事業

野生の生きものを守り活かす観光等の持続可能な地域振興を始めとした、自然環境と経済との関係について、調査・研究を行いました。

3. 自然と共存した美しく持続可能なくにづくり・地域づくりに向けたナショナル・トラスト事業

(1) ナショナル・トラスト地保全事業

活動の趣旨に賛同する個人や企業・団体からの寄付金を活用し、自然生態系を守るための土地の購入や寄付による所有に向け、調査検討を行いました。

(2) ナショナル・トラスト活動支援

我が国におけるナショナル・トラスト活動を発展させる上で必要な法律の制定や税制改正に向けた提言を行い、全国のナショナル・トラスト活動の発展に向けた協力を行いました。

特に(公社)日本ナショナル・トラスト協会の運営支援を行いました。

4. 自然と共存した美しく持続可能なくにづくり・地域づくりに向けた自然保全・再生墓地事業

(1) 自然の保全と再生を目的とした墓地の整備運営事業

森の墓苑(千葉県長南町)の運営と管理・整備を行いました。

「植樹草会2025」「秋まつり2025」を開催し、体験を通じた普及広報に取り組みました。

SNS、三井住友信託銀行(株)のロビー展、エコメッセちば(10月19日、エコメッセちば実行委員会)にて情報発信を行う等、森の墓苑の広報に取り組みました。

(2) 自然の保全と再生を目的とした墓地に関する情報収集

墳墓・墓地と自然に関する情報を収集し、森の墓苑の運営や整備に活かしました。